

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 852 号	氏名	庄司 寛之
学位審査委員	主査	江口 晋	
	副査	中島 正洋	
	副査	吉浦 孝一郎	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>下部食道に発生する良性狭窄病変である食道アカラシア患者での食道粘膜上皮内 microRNA (miR)を探索し、食道アカラシアでの食道慢性炎症の新しい診断法、治療効果のマーカーとしての意義を検討されており、研究目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>アカラシア患者の中部食道粘膜より内視鏡的生検を行い、組織中の miR 発現プロファイルを microarray にて検討。対照群として健常人食道同部位からの生検組織が用いられている。特異的発現が確認された miR130a, miR361-5p を RT-PCR 法にて定量化し、臨床的因子（喫煙有無、造影像、POEM:内視鏡的筋層切開術前後の変化等）との関連を検討されており、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>アカラシア患者の中部食道粘膜上皮では miR130a の発現が有意に上昇しており、発現量は男性、喫煙に有意に相関していた。しかし POEM 前後では内視鏡像は改善しているものの miR130a は変化なく、POEM 後の生検時期が 3 か月と比較的早期であったことが原因と考えられた。また cDNA array の結果、myotubularin related protein 10 (MTMR10)が miR130a の標的遺伝子として候補に挙げられた。</p>			
<p>以上のように本論文は食道アカラシアにおける病態研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			